ISSN 1881 － 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発　行：小川　義和
事務局：中西印刷株式会社　学会部内
URL：*http://www.jsse.jp*

2022.2.15
NO.256

科学教育研究レター

目　次

■ **選挙管理委員会だより** ……2
役員選挙・代議員選挙のお知らせ
■ **学会賞** ……3
第 45 回年会発表賞の決定
2022 年度学会賞候補者募集
■ **年会企画** ……6
第 46 回年会開催案内（第 3 次）
■ **調査研究・学術交流** ……10
第 26 回 教科「理科」関連学会協議会(CSERS)
シンポジウムのお知らせ
■ **支部・研究会だより** ……11
2021 年度研究会開催のお知らせ
■ **国際交流委員会だより** ……13
国際学会参加報告（65）
国際学会開催情報
■ **若手活性化委員会だより** ……16
2021 年度第２回日本科学教育学会研究会報告
第 46 回日本科学教育学会年会若手チュートリアル予告
■ **編集委員会だより** ……18
「科学教育研究」編集状況報告
「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況
■ **広報委員会からのお知らせ** ……20

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会
代議員選挙管理委員会

一般社団法人日本科学教育学会（以下本学会）では，定款に基づき，2022 年度以降（2022 年 7 月 1 日～）の代議員候補，及び，役員候補を選出するための選挙を実施します．2 つの選挙のための会告は会員の皆様に郵送にてお送りしております．本学会の役員・代議員にふさわしい方のご推薦をお願いいたします．

なお今回の選挙から，推薦書の様式が改訂されております．学会 HP から様式をダウンロードしてご使用ください．

※推薦書への押印について
役員候補者推薦書には，推薦責任者の押印が必要です．
代議員候補者推薦・立候補には，押印は必要ありません．

※候補者の推薦にあたっては，必ず候補者の承諾を得てから推薦書の提出を行ってください．

【会告の記載内容について（お詫び)】
会員の皆様にお送りした「代議員選挙会告」に誤りがありました．
会告の「推薦方法」には，立候補・推薦に「押印」を行う旨を記載しておりますが，改訂後の代議員立候補・推薦様式では，推薦者・被推薦者ともに押印欄を廃止しております（押印は必要ありません）．
会告に誤記載があったことから，今回の代議員選挙にあたっては，様式への押印の有無に関わらず，立候補・推薦を受け付けます．
このたびは会告の記載に不備がありましたこと，お詫び申し上げます．

学会賞

第 45 回　年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では，第 45 回年会発表賞について，会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね，候補者の選考を進めてまいりました.令和３年 11 月 20 日に開催された第 295 回理事会の議を経て，下記３件が 2021 年度年会発表賞に選ばれました.誠におめでとうございます.

発表者：
中村大輝 (広島大学大学院), 藤原聖輝 (広島大学大学院), 川崎弘作 (岡山大学), 小林和雄 (福井大学), 小林優子（筑波大学大学院, 日本学術振興会特別研究員 DC), 三浦広大（広島大学大学院), 雲財　寛（日本体育大学）
発表論文：
科学の本質の理解の評価方法とその特徴に関するレビュー, 第 45 回年会論文集, pp. 425-428, 2021.
選定理由：科学の本質の理解の評価方法について，精緻な文献のレビューを展開して，今後の研究の方向性を考えるに資する論考を展開している.

発表者：
木村百合子（筑波大学大学院）
発表論文：
数学教育におけるジェンダー研究のアプローチに関する一考察, 第 45 回年会論文集, pp. 329-332, 2021.
選定理由：日本ではあまり研究が着手されていない科学教育におけるジェンダーに関するテーマについて，概念整理を丁寧に行って，今後の学会の方向性を展望する貴重な情報を提供する先駆的な研究である.

発表者：
土佐幸子（新潟大学), 森悠人（新潟大学), 加藤聡（新潟大学附属新潟小学校）
発表論文：
小学校理科学習におけるモデリングの効果と危険性, pp. 531-532, 2021.
選定理由：小学校でのモデリングに対するアプローチを明確化し，モデリング導入のタイミングにより効果に差が出るという新奇性のある知見を示して警鐘を鳴らしている.

公示

2022 年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会　大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します.会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます.

1. 推薦期限

   2022 年（令和４年）5 月９日（月）（必着）

2. 推薦資格

   (1) 推薦者は会員とする.

   (2) 会員は，各賞について，それぞれ１件のみ推薦できる.

   (3) 各賞の推薦は他薦のみとする.

   (4) 推薦者は，推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロードできます）で，入手の上，その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する.

3. 受賞資格

   (1) 大塚賞:科学教育に関する著しい業績や貢献によって本法人の発展に寄与した会員とする.なお，本賞の受賞は１度限りとする.

   (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ，科学教育の発展に寄与した会員とする.対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去 10 年以内のものとする.なお，本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする.

   (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究に関して顕著な業績や功績のあった会員とする.対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去５年以内のものとする.なお，本賞受賞後，さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする.

   (4) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い，その成果を「科学教育研究」に論文として発表した会員とする.対象となる論文は，原則として，推薦期限の日から過去３年以内に発表されたものとする.なお，本賞受賞後さらに優れた論文を発表した場合には，その論文について受賞対象とする.

   (5) 科学教育実践賞：科学教育の実践研究に関して顕著な業績や功績のあった会員，または，会員との連携により，科学教育に従事し，顕著な業績や功績のあったグループとする.対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去３年以内のものとする.なお，本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする.

   (6) 功労賞：学会の管理・運営を通じて学会活動の充実・発展に寄与した会員とする.なお，本賞の受賞は１度限りとする.

   (7) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い，その成果を「科学教育研究」，「年会論文集」，「研究会研究報告」に発表した若手の会員とする.対象となる論文等は，原則として，推薦期限の日から過去２年以内に発表され，受理の時点で 39 歳以下のものとする.なお，本賞の受賞は１度限りとする.

4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない.

5. 選考

会員からの推薦に基づいて，学会賞選考委員会が候補者を選定し，理事会が決定する.

6. 賞

(1) 本賞は賞状とする.

(2) 賞の贈呈は，2022 年度代議員総会において行う.

7. 備考

論文賞の対象は,「科学教育研究」Vol.43，No.2 以降に掲載の論文とする.また，奨励賞の対象は,「科学教育研究」Vol.44，No.2 以降,「研究会研究報告」Vol.35，No.4 以降及び第 44 回・第 45 回年会論文集に掲載の論文等とする.

第 46 回年会 開催案内（第 3 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1．日程：2022 年 9 月 16 日（金）～18 日（日）（3 日間を予定）

2．会場：愛知教育大学
（〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1）
https://www.aichi-edu.ac.jp/access/index.html
※懇親会を行うかは，未定です.

3．連絡先：日本科学教育学会第 46 回年会実行委員会
E-mail：jsseaichi46 [at mark] gmail.com

4．スケジュール概要（予定）※プログラム編成により変更になる場合があります.
16 日（金） 午後：研究発表　理事会（改選前）　顧問・理事・支部長・代議員合同会議
17 日（土） 午前：研究発表　基調講演
午後：代議員総会・表彰　シンポジウム
18 日（日） 午前：研究発表
午後：理事会（改選後）　研究発表（申し込み状況により設定）
※その他，各委員会による企画，各委員会の会合等があります.

5．内容：次の内容を予定しています.
(1) 基調講演
(2) シンポジウム
(3) 課題研究発表
(4) 一般研究発表
(5) インタラクティブセッション
(6) その他の企画
※年会のタイムテーブルは，2022 年 3 月下旬に年会 Web サイトにて公開予定.

6．発表申込等について
(1) 課題研究発表の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします．企画をお持ちの方は応募ください.
なお, 年会開催日が例年に比べ, 遅くなっていますので, 企画応募締切は例年より遅くなっています.

＜スケジュール（予定）＞

・企画応募締切：2022年5月20日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】

・受理審議：2022年5月23日（月）～5月27日（金）【年会企画委員会】

・審議結果報告：2022年5月30日（月）【年会企画委員会 → オーガナイザー】

・原稿提出期間：2022年6月1日（水）～6月24日（金）【オーガナイザー → アップロード】

※ 6月24日（金）は，登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく，オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（「JSSE年会申込Webサイト」からアップロード）する期限です．なお，登壇者自身でアップロードすることも可能になりました．従前どおり，オーガナイザーが全員分を取りまとめてアップロードいただくか，登壇者自身でアップロードいただくか，どちらかの方法でご提出ください．

＜企画応募方法＞

・年会Webサイト掲載の方法で，申し込んでください．

＜原稿提出方法＞

・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿（発表1件あたり4ページまたは2ページ）の PDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください．

＜応募に当たっての留意事項＞

・オーガナイザー資格：会員でなければなりません．

・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定してください．課題研究発表での登壇は1回とし，登壇者の重複はできません．登壇を依頼される場合には，当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください．なお，登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には，申請用紙に記入してください．指定討論者については，重複を認めます．

・登壇者資格：登壇者は会員，非会員を問いません．ただし，非会員による発表件数は，原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします．やむを得ずに半数を超える場合は，企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください．非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません．非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは，年会企画委員会で審議します．なお，受理された企画であっても，受理後に登壇者の変更がなされ，非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合，受理が取り消される場合もありますので，ご留意願います．

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

＜スケジュール（予定）＞

・申込及び原稿提出期間：2022年6月1日（水）～6月24日（金）

※申込と原稿提出を同時に行ってください．

※期日等に変更が生じた場合は，学会Webや科学教育研究レターなどで通知します．

＜申込及び原稿提出方法＞

・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿のPDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください．

・書式や留意事項等の詳細は，「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください．

＜資格・登壇可能件数＞

・登壇者資格：会員でなければなりません.

※本欄における「会員」とは，学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します. ただし，発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため，入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については，発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく，年会が開催される新年度からの入会でも可とします.

・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は，各1件です. なお，一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は，課題研究，その他の企画にも登壇することができます.

＜発表時間＞

・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分，質疑・討論5分）を予定しています.

・インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です.

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては，次の要件を満たすように心がけてください.

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である.

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である.

◆研究の背景

関連研究，依拠する理論，関連する実践等によって，研究の背景が明示されている.

◆研究の方法

研究の方法論，手順，計画などが適切で，それらが明示されている.

◆結果と知見

得られた結果，知見，アイデア等が明示されている.

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている.

7．各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

・16日（金）の午後にかけて，チュートリアルを計画中です.

(2) 国際交流委員会

・17日（土）の昼に，国際ランチョン・ミーティングを計画中です.

8．年会の開催形態等について

・第46回年会は，新型コロナウィルスの感染状況に応じて，現地（愛知教育大学）での発表・参加もしくは，オンラインでの発表・参加を検討中です.

・オンラインでの参加・発表による開催になった場合，各自でオンライン会議システムZoom等が利用できる機器（パソコン・タブレット，イヤホン，マイク）の準備をお願いします.

・要旨集（プログラム）・論文集は，電子的方法にて配布いたします.

・会期中に台風・地震などの災害が起こった際や，新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が現地で発令された際の中止や開催方法の変更等の対応につきましては，開催校である愛知教育大学の

規定等を準用して判断し，年会Webサイト等を通じてご案内します.

９．第 46 回年会実行委員会

委 員 長　飯島康之（愛知教育大学）
副委員長　大鹿聖公（愛知教育大学）
委　　員　山田篤史（愛知教育大学），平野俊英（愛知教育大学）
　　青山和裕（愛知教育大学），磯部征尊（愛知教育大学）
　　宮川貴彦（愛知教育大学），高井吾朗（愛知教育大学）

10. 年会企画委員会

委 員 長 大谷　忠（東京学芸大学）
副委員長 向　平和（愛媛大学），川上　貴（宇都宮大学）
幹　　事 服部裕一郎（高知大学）
担当理事 山本智一（兵庫教育大学），瀬戸崎典夫（長崎大学）
委　　員 林　敏浩（香川大学），小泉健輔（群馬大学），畠山　久（東京工業大学），
　　高橋　聡（関東学院大学），中原久志（大分大学），高井吾朗（愛知教育大学），
　　江草遼平（千葉商科大学），神山真一（大阪体育大学），木村優里（明治学院大学），
　　福田博人（岡山理科大学），川崎弘作（岡山大学），山中真悟（福山市立大学），
　　内ノ倉真吾（鹿児島大学），石橋一昴（岡山大学）

第 26 回 教科「理科」関連学会協議会(CSERS) シンポジウムのお知らせ

◆ 第 26 回 教科「理科」関連学会協議会(CSERS)シンポジウムが開催されます.

テーマ：GIGA スクール構想で理科の授業はどう変わるのか―ICT 機器を理科で活用する方法を探る―

趣旨：GIGA スクール構想により，各学校では ICT 機器を活用した授業の実践が進められているが，改訂された学習指導要領で児童生徒に育成を目指す資質・能力は，理科の授業の中で，ICT 機器をどのように活用して育成することができるのだろうか. 今回のシンポジウムでは, CSERS の 6 学会に所属し，ICT 機器を活用した授業に積極的に取り組んでいる先生方からご報告をいただき，対面とオンラインが共存するこれからの時代に求められる理科の授業について，参加者の皆さんと議論をしたい.

日時：2022 年 5 月 15 日(日)　13:00～16:00（予定）
会場：オンライン形式
参加費：無料
申し込み方法・期限：決定次第，本学会 Web ページにてご案内いたします.

【教科「理科」関連学会協議会(CSERS)とは】https://www.facebook.com/CSERS
日本物理教育学会・日本化学会・日本生物教育学会・日本地学教育学会・日本理科教育学会・日本科学教育学会の 6 学会が連携し，理科教育に関する課題について協議してその振興に資することを目的としています.

（調査研究・学術交流担当　稲田，坂本）

2021 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン開催
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	オンライン開催
北陸甲信越支部	2022 年 3 月 6 日（土）	終了しました	オンライン開催
南関東支部	2022 年 3 月 27 日（日）	終了しました	オンライン開催
北関東支部	2022 年 4 月 24 日（日）	2022 年 3 月 15 日（火）	オンライン開催
四国支部	2022 年 6 月 4 日（土）	***	愛媛大学（予定）
中国支部	2022 年 5 月末～6 月予定		山口大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので，ご確認ください．
※右の QR コードより，学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます．
https://jsse.jp/1-3

2021 年度　第５回日本科学教育学会研究会（北関東支部）

［テーマ］今求められる科学教育研究
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［日　時］令和４年（2022）４月 24 日（日）　9：30～16：30（予定）
［会　場］オンライン開催（試行）
［対　象］会員，教員，学生，社会人
［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます．
参加費は無料です．
オンライン開催（試行）に参加をご希望の方は，2022 年４月 21 日（木）までに「申込み先」まで E-mail でご連絡ください．４月 22 日（金）以降にオンライン開催（試行）の ZOOM URL を直接ご連絡いたします．
なお，研究会当日の録音，録画はご遠慮ください．
［申し込み先］2021 年度第５回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：山本 容子
〒305-8572　茨城県つくば市天王台１－１－１　筑波大学　人間系教育学域
Tel (029-853-6736)
E-mail：yamamoto.yoko.fn(atmark)u.tsukuba.ac.jp（山本 容子）
［発表申込］発表は，単名または連名発表者に１名以上の会員を含むことが条件となります．発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします．また，１つの研究会で第１著者として申込みできるのは，１件です．希望される方は，氏名，所属，

発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所，使用機器 を明記した E-mail を 企画編集委員：山本容子（筑波大学） までお送りください．

発表申込締切は，令和４年（2022） ３月 15 日（火）です．

［原稿提出］研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください．

URL： https://jsse.jp/images/contents/kenkyu/2018/WritingGuidelineFrom2019.pdf

研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください．

URL： https://jsse.jp/images/contents/kenkyu/2018/WritingExampleFrom2019revised.docx

原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，令和４年（2022）４月４日（月）です．

次のウェブサイトから投稿してください．

https://jsse-kenkyukai-form.jp/

※研究会情報のプルダウンメニューで「北関東支部」を選んでください．

投稿完了メールは＜info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp＞より自動送信されます．このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください．アドレスの(atmark)の部分は＠です．

原稿提出が指定の期日に遅れますと，投稿できなくなり，自動的に取り消しとなります．また，原稿投稿料が指定の期日に遅れますと，発表できませんので，ご注意ください．

多数の方々の申込をお待ちしております．

日本科学教育学会　北関東支部長　高藤清美（筑波学院大学）

国際学会参加報告 (65)

World Association of Lesson Studies International Conference 2021

World Association of Lesson Studies (WALS)は，授業研究に携わる世界の研究者と教員及び教育関係者が集うことを目的として 2007 年に設立された学会である．2021 年度の International Conference は 11 月 29 日－12 月 2 日にマカオと香港において開催される予定であったが，新型コロナウイルス感染症の危険を鑑み，昨年に引き続きオンラインで開催された（https://www.walsnet.org/2021/about/conference/ ）．国際会議のオンライン開催において，空間的に離れていても画面上で会えるという利点がある一方で，時差はどうにもならない．世界中に会員の散らばる WALS では，時差の問題を解消するために，3 つのゾーン（1:アメリカ，2:アフリカ・欧州・中東，3:アジア・豪州）に分け，日ごとにゾーンを割り当ててプログラムを組むという方法をとった．大会テーマは“Revisiting Lesson and Learning Studies: Accessibility, Quality, and Sustainability”という授業研究の可能性をもう一度捉え直そうというものである．3 日間の開催を通して，38 の国・地域から 697 名の参加者があった．

ゾーン 1 のプログラム（図 1）の 1 つとして，米国ニューヨーク州の小学校教員 5 名のチームと学会参加者による授業研究がオンラインで行われた．小学校 2 年の生物分野の理科授業について，25 分間の背景と概要の説明後，授業ビデオが研究授業として公開された．「植物が育つのに最適な場所を見つける」という単元目標（図 2）の中で，「ハチが体のどこを使って花粉を媒介しているか」という問いについて，子どもたちがビデオ映像による観察を基に考えを述べ，議論する授業であった．その後，ライブで授業後協議会が行われ，筆者は Final Commentator として日本から参加した．

図 1　ゾーン 1 のプログラム

算数・数学の授業が多い米国のレッスンスタディにおいて，国際会議の場で理科授業が公開されたのは画期的だった．NGSS（次世代科学スタンダード）が多くの州で採択される中，実際の授業の様子を知る貴重な機会となった．特に，問いに対する答えとして，根拠と主張を子どもたちが述べ，教師がわかりやすく板書したことが，協議会において高く評価された．情報提供に偏りがちだったそれまでの授業を改善し，子どものクリティカル思考を促す授業であった．オンラインで国をまたいで行われた授業研究は，海外の動向と日本にない視点を提供し，大きな刺激となった．

（新潟大学・土佐幸子）

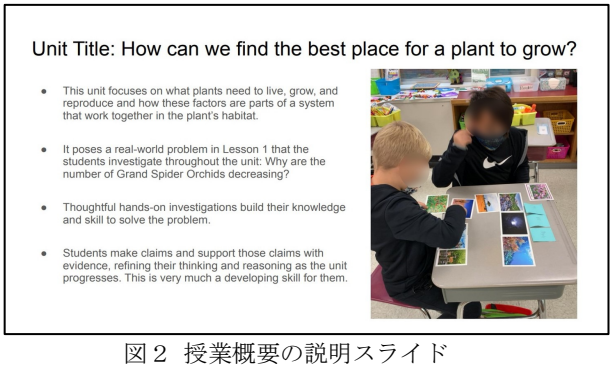

図 2　授業概要の説明スライド

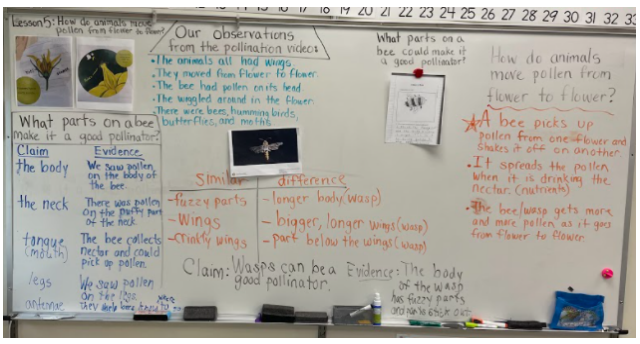

図 3　子どもの挙げた根拠と主張を明示した板書

国際学会開催情報

2022 年

NARST (National Association for Research in Science Teaching) 95th Annual International Conference
開催地：JW Marriott Parq, Vancouver, BC
期間：2022 年 3 月 27-30 日
https://narst.org/conferences/2022-annual-conference

ASERA (Australasian Science Education Research Association) 53 - 2022 Conderence
開催地：Curtin University, Perth（現地開催とオンラインのハイブリッド.）
期間：2022 年 6 月 28 日-7 月 1 日
https://www.asera.org.au/https-www-asera-org-au-conferences-2022-conference/

16th Biennial International History, Philosophy, and Science Teaching Group Conference
開催地：Calgary, Canada
期間：2022 年 7 月 3-7 日
http://www.ihpst.net/content.aspx?page_id=22&club_id=360747&module_id=400512

26th IUPAC International Conference on Chemistry Education
開催地：Cape Town, South Africa
期間：2022 年 7 月 18-22 日（2020 年 7 月から延期）2 年ごとに開催される化学教育の国際会議.
https://www.icce2022.org.za/

The 45th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education（PME45）
開催地：Alicante, Spain
期間：2022 年 7 月 18-23 日
http://www.igpme.org/annual-conference/

2022 International Conference of East-Asisn Association for Science Education (EASE)
開催地：Kyungpook National University, Daegu, Korea
期間：2022 年 7 月 25-26 日
https://ease2022.kr/cms/
Abstract 締切： 4 月 25 日
参加申込締切： 7 月 15 日（早期申込割引の締切： 6 月 25 日）

The 20th International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications (ICTMA20)
開催地：Würzburg, Germany
期間：2022 年 9 月 25-30 日
https://www.ictma20.de

4th International Conference on Mathematics Textbook Research and Development (ICMT-4)

開催地：Beijing Normal University, Beijing, China

期間：2022 年 10 月 11-14 日

https://icmt4.org.cn/

Abstract 締切：3 月 15 日

参加申込締切：8 月 30 日（早期申込締切： 6 月 30 日）

The 7th STEM in Education Conference

開催地：The University of Sydney, Sudney, Australia (Virtual Conference)

期間：2022 年 11 月 23-36 日

https://stem-2022.sydney.edu.au/

2021 年度第２回日本科学教育学会研究会　報告

2021 年 12 月 19 日，「次世代の科学教育研究」をテーマに若手活性化委員会担当の第２回研究会が開催されました．昨年に引き続き今年も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し，対面での研究会開催を断念することとなりました．

今年度の研究会は，ポスター発表やインタラクティブなやり取りという若手活性化委員会開催の研究会の特徴を生かしつつ，昨年度の研究会で生じた課題を解決するために，バーチャルワールドプラットフォーム「Virbela」によるオンライン開催となりました．研究会の開催においては，内田洋行教育総合研究所，東日本電信電話株式会社，東京書籍株式会社，株式会社新興出版社啓林館，株式会社メディアオーパスプラスのご協賛をいただきました．また，研究会の運営にあたっては，Virbela の日本代理店である株式会社ガイアリンクの手厚いサポートをいただきました. 当日は約 100 名の方に参加いただき（当日の最大同時参加人数 88 名），例年同様たいへん盛り上がった研究会となりました．あらためて感謝申し上げます．

研究会チュートリアルは, 年会企画を引き継いで, 研究方法論をテーマに実施しました. ゲストスピーカーとして，山口悦司先生（神戸大学），北澤武先生（東京学芸大学），上ヶ谷友佑先生（広島大学附属福山中・高等学校）という研究分野等の異なる 3 名の先生方をお招きし，Research Question をどのようにたてているのか，研究方法論やデザインをどのように設定しているのか，どのように研究（と執筆）を進めているのか，などの貴重なお話をいただきました．参加者からは，「第一線で研究されている先生方から，論文からは読み取れない色々を聞けて楽しかったです」，「現場からの研究の視点と研究の専門家としての研究の視点を併せて聞くことができ，とても勉強になりました」，「科学教育の考え方や研究の手法，何をリサーチクエスチョンとして捉えているのかなど異分野・異領域についての理解を深めることができました」といった感想をいただきました．学部学生からは卒業論文の執筆に有用であったというコメントもありました．昨年実施できなかったチュートリアル／ワークショップの企画を実施できたことは，研究会のより一層の充実につながったように思います．ご発表いただいた 3 名の先生方，誠にありがとうございました．

ポスター発表は 43 件で，3 つのセッションに分けて行われました．それぞれのセッションは個性的なポスターマッドネスに始まり, 参加者同士の活発な議論が仮想空間全体にわたって繰り広げられました．参加者からは,「臨場感があった」,「オンラインではあるものの実際にキャラクターを動かして発表することで，リアルなポスターセッションを行えたと感じました」,「実際のポスターセッションに近い形でできたのがよかった」という感想をいただきました．一方，ポスターの解像度やハードウェア要件等の実施環境に関わる問題点もご意見いただきました．お寄せいただいたコメントは今後の研究会運営向上のために役立てさせていただきます．アンケートにご回答いただき誠にありがとうございました．

参加者投票の結果，今回のベストプレゼンテーション賞に選ばれた方は以下の 6 名でした．素晴らしい発表で研究会を盛り上げていただき誠にありがとうございました．

【2021 年度ベストプレゼンテーション賞受賞者】

雲財　寛（日本体育大学）：

理科における知的謙虚さ尺度の検討

鷆野彩花（宮崎大学大学院教育学研究科）：

TIMSS2015 及び TIMSS2019 の正答率において男子が女子の正答率を上回る問題の特徴

-女子が男子の正答率を上回る問題と比較して-

長沼祥太郎（九州大学）：

項目毎の理科離れ層の変動の可視化

亀山晃和（高知大学大学院総合人間自然科学研究科）：

観察・実験グループに対する心理的安全性の概念理解に関する研究

―マルチレベルモデルを用いて―

新井拓夢（奈良教育大学）：

複数の PPDAC サイクルを内包した避難所設置に関する教材の開発

山田明日可（島根大学教職大学院）：

算数科授業にみられる価値観の変容に関する一考察

研究会の様子

第 46 回日本科学教育学会年会若手チュートリアル予告

2022 年 9 月 16 日（金）～18 日（日）に愛知教育大学で開催されます第 46 回年会において，若手チュートリアルを大会初日の 9 月 16 日（金）の午後に開催予定です．企画内容の情報は，決まり次第，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリスト等でお知らせいたします．なお，スタートパーティおよびフィールドワークは予定しておりません．ご留意ください．

情報は，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで続々公開しております．どうぞご期待下さい．

○若手活性化委員会 Facebook

https://www.facebook.com/jssewakate/

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

https://goo.gl/tClQb4

（大谷洋貴：日本女子大学）

編集委員会だより

「科学教育研究」編集状況報告

1．新規投稿論文（2021.12.1～2022.1.31）：12 編

【内訳】

和文 12 編，英文 0 編

2．査読中論文（2022.1.31 現在）：24 編

【内訳】

担当編集委員選出中：4 編

査読者選出中：3 編

査読中（1 回目）：0 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中：2 編

改訂稿待ち：5 編

査読中（2 回目）：7 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中：3 編

編集委員長による最終判定中：0 編

3．掲載決定論文（2021.12.1～2022.1.31 現在）：5 編

【内訳】

研究論文：4 編

総説・展望：0 編

資料：0 編

プラザ：1 編

【合計】

46-1 号：3 編（通算 5 編）

46-2 号：2 編（通算 2 編）

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（2022年1月31日　現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数（見なし取り下げを含む）	
	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	掲載不可	取り下げ
2020年　12月	6	0	18	0	2（44-1） 0（44-2）	0（44-1） 0（44-2）	0 0		6	0
2020年　1月	8	1	21	1	1（44-1） 1（44-2）	0（44-1） 0（44-2）	0 0		3	0
2020年　2月	6	0	19	1	4（44-2） 0（44-3）	0（44-2） 0（44-3）	0 0		4	0
2020年　3月	11	2	24	2	2（44-2） 0（44-3）	0（44-2） 0（44-3）	1 0		5	0
2020年　4月	30	0	42	2	1（44-2） 0（44-3）	0（44-2） 0（44-3）	1 0		10	1
2020年　5月	7	0	42	2	0（44-2） 0（44-3）	0（44-2） 0（44-3）	0 0		6	1
2020年　6月	2	0	33	0	0（44-3） 0（44-4）	0（44-3） 0（44-4）	0 0		13	0
2020年　7月	8	0	33	0	4（44-3） 2（44-4）	0（44-3） 0（44-4）	0 0		2	0
2020年　8月	9	0	33	0	4（44-4） 0（45-1）	0（44-4） 0（45-1）	0 0		4	1
2020年　9月	9	0	30	0	8（44-4） 0（45-1）	0（44-4） 0（45-1）	0 0		4	0
2020年　10月	15	0	38	0	2（44-4） 1（45-1）	0（44-4） 0（45-1）	0 0		3	1
2020年　11月	5	0	34	0	4（45-1） 0（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		5	0
2020年　12月	6	0	28	0	2（45-1） 0（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		10	0
2021年　1月	8	0	27	0	1（45-1） 3（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		5	0
2021年　2月	4	0	26	0	0（45-1） 3（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		2	0
2021年　3月	11	0	23	0	7（45-2） 0（45-3）	0（45-2） 0（45-3）	0 0		7	0
2021年　4月	14	0	28	0	1（45-2） 2（45-3）	0（45-2） 0（45-3）	0 0		6	0
2021年　5月	6	0	25	0	0（45-2） 3（45-3）	0（45-2） 0（45-3）	2 0		6	0
2021年　6月	4	0	23	0	2（45-3） 0（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		4	0
2021年　7月	8	0	27	0	2（45-3） 1（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		1	0
2021年　8月	3	0	25	0	0（45-3） 0（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		4	1
2021年　9月	3	0	22	0	0（45-3） 3（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		3	0
2021年　10月	6	0	18	0	1（45-4） 2（46-1）	0（45-4） 0（46-1）	0 0		6	1
2021年　11月	13	0	29	0	0（45-4） 0（46-1）	0（45-4） 0（46-1）	0 0		2	0
2022年　12月	6	0	30	0	2（46-1） 0（46-2）	0（46-1） 0（46-2）	0 0		3	0
2022年　1月	6	0	24	0	1（46-1） 2（46-2）	0（46-1） 0（46-2）	0 0		9	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 256 号をお届けします．一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら，学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ，お知らせください．

担当理事： 谷塚光典（信州大）　森田裕介（早稲田大）

委　　員： 加納　圭（滋賀大）　益川弘如（聖心女子大）　辻　宏子（明治学院大）
稲田結美（日本体育大）　越智拓也（国立教育政策研究所）
高井吾朗（愛知教育大）　山本輝太郎（明治大）

幹　　事： 榎本哲士（北海道教育大）　後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集　日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会　Japan Society for Science Education

ＵＲＬ： *http://www.jsse.jp*
□ 事務局　中西印刷（株） 学会部　内　ＴＥＬ：075-415-3661　ＦＡＸ：075-415-3662
E-mail：*jsse [at mark] nacos.com*
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集）　ＴＥＬ：075-415-3155　ＦＡＸ：075-417-2050
E-mail：*jsse-hen [at mark] nacos.com*
中西印刷（株） 学会部　内　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座：00170-6-85183　日本科学教育学会
銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店　普通 2269008　日本科学教育学会